

(様式 2-1, 2-2 はこのまま PDF 化し, 学内限定で公開します)

令和4年度三重大学国際交流事業実施報告書 (学内版)

1. 申請部局

学部・研究科名等: 高等教育デザイン・推進 全学共通教育センター

事業担当者の職・氏名: 講師・サコラヴスキー ジェシー

内線電話番号: 9824

電子メール: soko@ars.mie-u.ac.jp

2. 事業の名称 (20 字以内, 別に副題を付けても良い)

英語特別プログラム English Immersion 夏期集中講義

3. 事業内容の別 (該当するところにチェックを入れてください。)

教職員, 学生の海外派遣 (学会やシンポジウム等の出席は除く)

海外交流機関等からの教職員, 学生の受け入れ

国際教育プログラムの開発や推進

その他

4. 事業の取組結果

(1) 事業概要 (簡潔に事業全体の概要がわかるように記述してください)

本事業は、全学共通教育センターが提供する英語特別プログラムの一環として、プログラムを履修する学生を対象した English Immersion 夏期集中講義である。全 15 回の授業を連続 4 日間、英語Ⅱ発展 B (Reading & Discussion) の授業として対面形式で開講する。

(2) 事業の背景・これまでの実績

本事業の対象となる「英語Ⅱ発展 B (Reading & Discussion)」は、コロナ禍以前はシェフィールド大学英語教育センターの講師による英語特別プログラムの夏期集中講義として実施されてきた。1 週間、英語のみによる授業を集中的に受けることは、英語力の向上のみならず、外国語での会話における自信や意欲の向上、英語に対する知的好奇心の促進など、通常授業においては得難い能力の育成につながる貴重な機会であった。このことは、2 月～3 月に海外研修に参加する学生にとり、知的にも精神的にも準備を整える機会となった。

コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、令和 2 年度以降は講師を招いて集中講義を実施することが困難な状況となった。そのような状況においても、プログラムを履修する学生に対し、できるだけ英語だけの学習機会を提供すべく、それまで対面で実施してきた本事業について、令和 2 年度についてはオンラインで開講した。開講形式は変更となったものの、学生にとってはネイティブの講師から学ぶことのできる貴重な機会であり、英語力の向上はもちろん、外国語での会話における自信や意欲の向上に繋がってきた。

(3) 事業実施結果

今年度は対面で実施することとしたものの、コロナウイルス感染症感染拡大の影響を鑑み、海外からの講師の招聘は行わず、これまでにプログラムで講師を務めてきたリチャーズ・ジョン非常勤講師が担当し、集中講義を実施した。令和 4 年 9 月 27 日(火)から 30 日(金)の授業期間中、19 名の学生(医学部 13 名、人文学部 3 名、生物資源学部 2 名、工学部 1 名)が履修し、4 日間、英語のみの環境で対面で授業を行った。

授業は、より豊かな語彙力の修得と、議論や発表を行うために必要な実践的英語力の向上という目的のもと、提示されたテーマについてのグループワークやペアワーク、個人やグループでの発表などの活動を中心に進められた。1 日目は文化的アイデンティティ、2 日目はカルチャーショック、3 日目はコミュニケーション力、4 日目はグローバル・シティズンシップという、毎日異なるテーマが設定された。受講生は、各テーマに関する課題に取り組みながら、それらの内容に対する理解を深めるとともに、各テーマに関する自己分析を行い、自身の考えをまとめて発表するなど、テーマの内容と自分自身のことを引きつけながら考える機会を得ることができた。

(4) 事業の意義

受講後に実施した学生対象のアンケートでは、授業全体への高い満足度が示され、

英語での学習環境に対する肯定的な評価を得ることができた。具体的には、「英語のみの環境で過ごすことにより、英語力を高めることができた」「英語で会話する際に間違ふことを以前より恐れることがなくなった」「他の受講生と英語で議論をすることを通して、自分の考えを英語で表現できるようになった」など、英語力の向上だけではなく、英語で会話をする意欲や姿勢にも効果が見られた様子や、「異なる文化の人と上手につきあっていく方法が分かった」「この授業で培ったスキルを海外留学に活かしたい」など、今後の英語学習や異文化間コミュニケーションに対する肯定的な姿勢がうかがえた。

英語による授業は通常の授業期間中において複数開設されてはいるものの、本事業のように集中的に時間を設け、イマージョンプログラムとして提供することは、通常授業からは得られない教育的効果が期待できるものである。また、単に英語力の向上という技術的な側面のみならず、外国語で発話することへの意欲や態度、異なる文化への理解など、世界的視野を備えたグローバルに活躍できる人材に必要な資質・能力の習得において非常に有意義であると言える。

(5) 事業の発展性

今後、来年度より開講予定の国際理解実践（国際理解研修）においてシェフィールド大学で語学研修を実施することを受け、今後、本事業はその準備段階となる授業として位置づけることができると考える。また、講義の一部においてCOILを取り入れるなど、対面とオンラインを併用した国際共修により、さらに実践的な英語力向上を目指し展開していく可能性を有している。

(6) 中期目標・中期計画における位置づけ

1 教育研究の質の向上に関する事項

2 教育

(8) 学生の海外派遣の拡大や、優秀な留学生の獲得と卒業・終了後のネットワーク化、海外の大学と連携した国際的な教育プログラムの提供問う②より、異なる価値観に触れ、国際感覚を持った人材を統制する。⑫

(7) その他

特になし。

5. 事業に係る経費執行結果

事業費		事業費の内訳	
		助成金額	自己負担額
①+②	166.0 (千円)	① 166.0 (千円)	② (千円)
経費区分	金額 (千円)	積算内訳	
1) 旅費	助成分 1.0	交通費	
4) 謝金	助成分 165.0	手当 5,500 円 × 30 時間 = 165,000 円	
合計	助成分 166.0		

令和4年度三重大学国際交流事業実施報告書（一般公開：日本語版）

本事業は、全学共通教育センターが提供する英語特別プログラムの一環として、English Immersion 夏期集中講義を開講するものである。

本事業の対象となる「英語Ⅱ発展B (Reading & Discussion)」は、英語特別プログラムの必修科目として、コロナ禍以前においてはシェフィールド大学英語教育センターの講師による夏期集中講義として実施されてきた。英語で受ける集中講義は、英語力の向上のみならず、外国語での会話における自信や意欲の向上、英語に対する知的好奇心の促進など、通常授業においては得難い能力の育成につながる貴重な機会であった。

コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、講師を招いて集中講義を実施することが困難になったため、令和2年度はオンラインで開講した。開講形式は変更となったものの、学生にとってはネイティブの講師から学ぶことのできる貴重な機会となった。

対面形式での授業運営が可能になった今年度は、従来通り、対面で実施することとした。講師については、コロナウイルス感染症感染拡大の影響を鑑み、海外からの講師の招聘は行わず、国内に居住する外国人講師（リチャーズ・ジョン非常勤講師）が担当した。令和4年9月27日（火）から30日（金）の期間中、19名の学生（医学部13名、人文学部3名、生物資源学部2名、工学部1名）が受講した。

授業は、より豊かな語彙力の修得と議論や発表を行うために必要な実践的英語力の向上という目的のもと、提示されたテーマに関するグループワークやペアワーク、個人やグループでの発表などの活動を中心に進められた。1日目は文化的アイデンティティ、2日目はカルチャーショック、3日目はコミュニケーション力、4日目はグローバル・シティズンシップと、毎日異なるテーマが設定された。受講生は、各テーマに関する課題に取り組みながら、テーマの内容を自分自身に関連づけて考え、英語でそれを伝達し、他者と意見交換を行った。

受講後に実施したアンケートでは、授業全体への高い満足度が示され、英語での学習環境に対する肯定的な評価を得ることができた（満足度について5段階で評価を求めたところ、平均値は4.79）。例えば、「英語のみの環境で過ごすことにより、英語力を高めることができた」「英語で会話する際に間違えることを以前より恐れることがなくなった」「他の受講生と英語で議論をすることを通して、自分の考えを英語で表現できるようになった」など、英語力の向上だけでなく、英語で会話をする意欲や姿勢にも効果が見られた様子や、「異なる文化の人と上手くつきあっていく方法が分かった」「この授業で培ったスキルを海外留学に活かしたい」など、今後の英語学習や異文化間コミュニケーションに対する肯定的な姿勢がうかがえるコメントが寄せられた。

コロナウイルス感染症感染拡大に伴い、今年度も実際に海外に赴いて研修に参加することが困難な状況の中、一定期間、英語だけの環境で集中的に学ぶ機会を設けることにより、語学力の向上のみならず外国語での会話への姿勢や態度、そして、今後の学習への動機づけをすることができた。

令和4年度三重大学国際交流事業実施報告書（一般公開：英語版）

The 2022 summer program was a four-day English immersion intensive course in connection with the Special English Program (SEP). Called *English II Advanced B – Reading and Discussion*, the course has been a key component in SEP for years and was originally taught by a visiting professor from the University of Sheffield in England before the COVID-19 Pandemic. The four-day immersion in English offers a special opportunity for students, one which is difficult to provide during the typical university semester in Japan. The course helps students to improve not only English language skills but also confidence and desire to communicate, while also sparking intellectual curiosity.

The course was held face-to-face from September 27 through September 30, 2022, a return to its roots in the classroom after having previously been moved online due to the pandemic. Led by instructor Jon Richards, a native speaker of English, 19 first-year students in SEP experienced using only English from 8:50 AM to 4:10 PM each day for four consecutive days.

This year's course varied its themes and activities by day. There was an overall focus on culture, communication, and self-identity, with topics ranging from light to heavy. Day One focused on the theme of cultural identity. This became a pathway to the theme of culture shock on Day Two. On Day Three, students examined different communication styles and how best to communicate with people who use each style. The course finished on Day Four with a focus on global citizenship as students made group presentations on the meaning and responsibilities of the global citizen. Regardless of the day, students were required to work in small and large teams to develop language and team skills.

Responses to a survey conducted at the end of the course indicated that students were satisfied with the course (4.79 average score out of a possible 5.00). Some comments from students are shown below.

- “The English-only environment was perfect for improving my English speaking and listening skills.”
- “[I gained the] ability to explain or exchange my opinions in English. I would like to study abroad, so I want to make use of this ability there.”
- “Of course, the class contents were so useful, but I think the best point was being in an English-only environment. I was able to eliminate more resistance to speaking English and enhance my English skill.”
- “I was able to speak English, write English, listen to English all day long. This definitely helped me get used to English.”
- “I have found that I can get by with English alone more than I thought.”
- “I could feel as if I was not in Japan.”

These and other comments indicate that students valued the experience of being in an English-only environment over a period of several days and that the experience contributed to their learning.

Although the pandemic has prevented our students from studying abroad in the current academic year, this English immersion course provided students with a glimpse of what living abroad in an English-only environment might be like. Through this experience, they improved their English skills and it is hoped that this will lead to increased motivation to continue learning English in the future.